2023.12.22
事業部事業課

2023 年度　全国指導者会 正副会長会議・ブロック責任者会議　実施報告書

１．日時・場所
（１）正副会長会議　　2023 年 12 月 12 日（火）15：00～17：00
（２）ブロック責任者会議　　2023 年 12 月 13 日（水）　9：00～17：00
　会場：熊本県南阿蘇村 四季の森 会議室
（３）視察研修　　2023 年 12 月 14 日（木）　9：00～11：00
　場所：熊本地震震災ミュージアム KIOKU（旧 東海大学阿蘇キャンパス）

２．主席者
・全国指導者会　工藤祐直会長、曽根由多副会長、工藤陽平副会長、ブロック責任者 10 名
・B&G 財団　　菅原理事長、朝日田常務理事、中島次長、事業課鈴木課長、持田　5 名
・開催地首長挨拶　南阿蘇村 吉良清一村長

３．会議の目的
Ｂ＆Ｇ全国指導者会（略称：全指会）は、海洋センター・海洋クラブ業務の範囲に関わらず、行政職員やスポーツ施設管理者、地域社会の一員として日ごろから地域づくりや社会貢献に勤しんでいる全国のＢ＆Ｇ指導員、Ｂ＆Ｇ地域指導者会員の取り組みを一定の方向性にまとめて大きな成果を生み出すために組織された。その代表者・責任者が、会長、副会長、ブロック責任者（10 ブロック 10 名）であり、取り組みの調整・意思決定のため定期的な会議を開催している。
「正副会長会議・ブロック責任者会議」は、例年下半期の前半に行われ、上半期の「全国指導者会目標」事業の進捗状況や、各地の地域指導者会の状況、課題等を共有したうえで、下半期の取り組みや、翌年度の方向性を取り決めることを目的に開催している。

４．会議概要
（１）開会
①菅原理事長　挨拶
開催地 南阿蘇村と南阿蘇村指導者会への協力への感謝の言葉を申しあげる。全指会・Ｂ＆Ｇ財団が連携してこそ地域社会への貢献が実現できる。この会議はその方向性や内容を定める重要な場であるため。積極的な議論をお願いしたい。

②開催地　南阿蘇村　吉良清一村長
会議開催地として会議一行の来訪を歓迎する。熊本地震の復興支援に際しては全指会、Ｂ＆Ｇ財団関係者から多数のご支援をいただき感謝している。近年インフラの整備も完了したの

で、震災遺構ミュージアムや村内の施設などもご覧いただきたい。

③全国指導者会　工藤祐直会長（青森県南部町長）

熊本地震をはじめと全国の災害の際には南部町からも各種支援を行ってきたが、その源にはＢ＆Ｇの横の繋がりがある。有事の際に積極的に助け合うＢ＆Ｇ指導員の絆を大事にしていきたい。今回の会議では全指会の新たな目標「郷土教育・食品ロス削減」をしっかりと議論し、全国の海洋センター・指導者会による 3 年間の取り組みの成果設定を定める。

（２）2023 年度上半期 全指会活動（継続事業）の進捗報告

2023 年度前半の活動把握のため、11 月に各センターの事業進捗報告アンケートを実施。
その結果に基づき事務局職員から報告を行った。（資料 P3～13）

（３）2023 年度上半期 全指会活動（新規２事業）の審議

①全国指導者会 今期「ビジョン・基本方針・活動目標」の確認

審議の前段として、「第 5 回記念総会」（2023 年 2 月開催）にて決定した全指会の「2023 年度～2025 年度 ビジョン・基本方針・活動目標」および郷土教育や食品ロス削減の取り組みの 2023 年度上期における提示した実施例・方法について、認識の共有のため事務局職員から報告を行った。（資料 P14～38）

②郷土教育の事例紹介

2023 年度「ブロック別指導員研修会」において、郷土教育の取り組みを各ブロック 3～4 ヵ所が事例発表した。ブロック責任者のセンターも発表を行ったことから、ブロック責任者 2 名から事例発表を行った。（資料 P17～36）

（発表者）

・中国ブロック責任者　阿瀬川氏（島根県浜田市三隅）

・北海道ブロック責任者　長尾市（北海道大空町女満別）

③郷土教育・食品ロス削減事業の進捗報告

継続事業同様に、事業進捗報告アンケートの結果について事務局職員から報告を行った。（資料 P37-38、P41- 43）

④「自然体験を通じた郷土教育」の定義と実施内容の確認、および 3 ヵ年目標における成果設定

【審議事項】

アンケートや実施後の感想を通じて、様々な実施内容（自然体験、文化体験、環境教育、産業体験 等）や地域ごとの課題が上がってきたことから、3 年後の成果・到達目標の設定とあわせて、実施内容のすり合わせを審議いただいた。

その結果、下記内容が決定された。

●「自然体験を通じた郷土教育」決定事項

・従来型の「郷土教育」は、文化、産業、地域環境を伝達する内容だが、全指会が目指すのは、あくまで「自然体験活動」によって、五感を通じて、時代の地域を担う子供たちに地元への愛着を育んでもらう内容であるべき。
そのため、「自然体験活動」が中核にあることを一層周知したうえで実施を促すこととする。【自然体験活動ありき、そこに郷土教育の要素を加える】
ただし、文化体験に重きを置くなど、地域ごとに多様な実施内容が寄せられていることを尊重し、実施方法が適切／不適切であるかの判定は、全指会・事務局において行わない。

●「食品ロス削減活動」決定事項

・当初はフードバンクなどの実践活動を想定していたが、様々な事情によりそれが難しい自治体があることが判明した。一方で、啓発活動を含めると年度内に 50%以上の取り組みが見込める状況にあり、会員・センターの高い意欲が見て取れる。
そのため、「実践活動」に加えて「啓発活動」も可とする。ただし、ポスター掲示や情報発信ではなく、子供たちに直接伝える「行動」が伴うことを条件としていく。

●3 ヵ年計画　決定事項

・「全指会」を結成した趣旨に鑑みると、Ｂ＆Ｇ指導員・地域指導者会が“総力を結集して取り組む”事こそがもっとも重要な要素である。
そのため、3 年目の数値目標を性急に設定する必要はなく、一旦、2024 年度には実施センターの増加に取り組み、未実施センターが無い状態に持って行く。
実施が 100%またはそれに近い状況にした上で、2024 年度の実績数字を元に、最終 3 ヵ年目＝2025 年度の最終目標を、来年度の本会議にて決定する。

・実施 100%を目指すにあたって、2024 年度はブロックや県連、近隣センター事業への協力や参加も認める。ただし当然スタッフ参加は対象外であり、自センターの子供たちを参加させることが必須条件。
しかる後、2025 年度は「自センターでの主催事業」とする。

・上記目標の達成を目指すにあたり、<u>来期の「海洋センター評価」では「自然体験活動」および「郷土教育」をマイナス評価対象の「必須事業」に位置付けるよう、Ｂ＆Ｇ財団に対して要望する。</u>

⑤2024 年度「ブロック別指導員研修会」の実施方法と内容

【審議事項】

前段にて、「郷土教育」「食品ロス削減活動」の内容と方向性が定まったことから、目標達成に向けた全体周知・理解の機会である 2024 年度 4～6 月の「ブロック別指導員」について、実施方法と内容を審議いただいた。

その結果、概ねの方向性が定まったが詳細部分の決定には至らず、共通認識が得られた内容を下敷きとして副会長および事務局が詳細内容を詰めたうえで、後日会長、ブロック責任者の承認を得て会員・海洋センターに周知することとなった。

●2024 年度　案

・全国で統一した内容・レベルのものを提供するため、ブロック研修の形式を維持する。

・講義の聴講のような一方通行形式の研修に止まらず、センター担当者が自治体の郷土の魅力、それを引き出す方法について考える時間や機会としたい。

・会議に置いて議論のあった、県連での研修会の実施については、実施が可能な県連では積極的に実施を促したい。

※補足

・ 県連での実施は、全ての県連が可能ではないため。
（2 センターの県、県連の無い県（奈良県）、活動状況や予算状況）

※参考

【副会長・事務局間での原案】

講師講義、郷土教育の事業説明、郷土教育のチェックシート記入と共有、相談または発表を盛り込みたい。

５．所感

（中島次長）

今回のブロック責任者会議は、今年から進める新たな 3 ヵ年目標について、どのようなロードマップを設定し、今後の活動を進めていくのかを検討する、とても重要な会議であった。

四季を通じた自然体験活動による郷土教育の推進については、これまで推進してきた全センターによる海レク実施に代わる新たな内容であるが、2023 年度は努力目標的な位置づけであったものを、2024 年度、2025 年度は全センターで取り組んでいくという明確な方向性を定めるに至った。

また、食品ロスに関する取り組みでは、徐々に全国のセンターに取り組みの輪が広がり始めており、引き続き各センターが実施可能な範囲で推進してくことを確認した。

オンライン会議などが普及している現在ではあるが、会長、副会長をはじめ各ブロック責任者

が直接顔を合わせて、積極的に意見を交換することは、全国指導者会の連携強化に必要なことであると同時に、活動の活性化に向けて意思を統一する意味でも大変有意義な会議となった。

次年度以降は、四季を通じた自然体験活動による郷土教育の取り組みについて、各センターの理解を促し、未実施センターが 1 センターでも少なくなるような取り組みが必要となってくる。その為にも、会議内では具体的な内容まで決定できなかったブロック別指導員研修会について、早急に事務局と共にプログラムの策定を進めるとともに、副会長、各ブロック責任者が同じ認識のもとに活動を展開できるよう、情報を共有しながら、次年度に向けた準備を進めていきたい。

（鈴木課長）

・東京以外でのブロック責任者会議は 4 回目の開催で、初めて西日本で行うこととなった。
笠さんには、南阿蘇村での開催を快諾いただき、送迎車両や昼食・懇親会、宿泊施設、視察先の手配など、南阿蘇村滞在中の対応に改めて感謝を申し上げたいと思います。

・会議は大きな 3 つの議題のうち、郷土教育、食品ロスなどの定義、3 か年の計画の 2 点については概ね了承が得られた。しかし、2024 年度ブロック別指導員研修会の内容については、忌憚のない発言が多く、総会会場の制約、県連でのワークショップ実施案、指導員以外の参加者の対応他意見があり、決定は事務局預かりとなった。

・本会議は引き続き忌憚のない意見交換をする場と考えているが、今回の会議の結果を受けて、よりブロック状況に左右されない研修会案や本会議とは別に事前説明の機会を設けるなど、案件によっては、丁寧な説明、十分に趣旨や目的を理解した上で議論を行うことも改善案のひとつとしたい。

・皆さんの意見は尊重するが、すべての意見に合わせるために、レベルを下げた、事務局が掲げる目的を達することの出来ない研修会とならないよう、再度副会長と代替案を作成の上、1 月中の決定、全センターへの発信を行うスケジュールで進める。

・感想としては、ブロックの状況や指導員の生の声、現場の話を聞くことができるため、本会議は必要不可欠なものであると思う。また、財団で唯一の予定調和でない会議であるため、毎回緊張感を持ちながらも、どのように意見を着地させるか副会長と熟慮し、非常に学びが多い、やりがいのある事業である。

・昨年度と違う点は全国指導者会の担当者が持田さんに変更となり、事前準備、副会長との連絡調整、当日の会議進行など、新しい風を入れながら、実施。
もともと持田さんは指導者養成も担当していたため、ブロック責任者ともすんなり打ち解けて、文字通りのチームの一員となっているように伺えた。

・事業課としては、年度内に指導員研修会を控えており、そこでも全国指導者会の取り組みや 3 か年の目標、計画を伝達して、成果に繋げる取り組みを行う。

（持田）

・現在の地方開催のブロック責任者会議になってから初めての出席となったが、改めて、工藤会長、曽根・工藤副会長、ブロック責任者 10 名の熱意と行動力に敬意を抱いた。
今回の進捗報告にあたって、全海洋センターへの事業実施状況アンケートを行ったが、ブロッ

ク責任者の中には海レク実施が覚束ないセンターに対して訪問行脚の形で助力をしたり、アンケート未回答センター一覧を共有した際には個別の連絡をしたりするなど、公私を超えて尽力いただいているとの話も伺っている。
そのような行動には、担当としても財団職員としても非常に助けられているのはもちろんだが、一方で、彼らのような有為な人材を「やる気のないセンターのベビーシッター」のような使い方をしてはならないと感じる。
いみじくも会議での理事長発言のように、下位のセンターのフォローではなく、彼らには「トップランナー」としての役割を果たしていただけるよう、更なる協調をとっていきたい。

・もう１点、工藤会長、ブロック責任者のセンターは各地の県連に属しているが、県連の活性状況には現在、非常に大きなばらつきがあり、かつ県幹事を務めるセンター・担当者によっては活動が低調になることも多いとブロック責任者から聞く。
やはり不活発なセンターの異常に気付き、喝を入れるのも手を差し伸べるのも、隣人である県連のセンター達であり、その繋がりが弱体化すれば大きな地盤沈下へと繋がる事が懸念される。
事例として、今回アンケート結果のフィードバック（実施／未実施の割合のみで、個別のセンター名は伏せたもの）を全センターに行った所、即座に青森県連の幹事センターから「青森県内に未実施が一つでもあるセンターがあれば教えて欲しい」との電話を受けた。やはりこういう対応を行う県連は強いのではないか。
今後は全指会・事務局として、県連の活性化を議論すべき段階にきていると考えている。

以上